



北里大学同窓会栃木県支部 新年会・定期総会・支部講演会

北里大学同窓会
2013年12月25日発行



栃木県支部ホームページQRコードです。
スマートフォンでのアクセスに利用下さい。



Merry Christmas and
Happy New Year!!!

2013年、有難う。2014年、今年も宜しく。

栃木県支部 運営委員一同

第三回定期総会、支部講演会、懇親会

のお知らせ

支部長 滝 龍雄

平素は、北里大学同窓会栃木県支部の活動に、ご理解・ご協力を頂き有難うございます。本年も宜しく申し上げます。

栃木県支部が活動を再開してから三回目となる定期総会を下記の要領で開催します。当日は支部講演会、支部懇親会も同時に開催します。

会員の皆さん、奮ってご参加下さい。

第三回定期総会

日時：2014年7月13日（日曜日）午後

場所：ニュー・イタヤ・ホテル

支部講演会

講師：兼丸卓美（重医学部1期生）

演題：午年（うまどし）にちなんで（仮題）

懇親会

詳細は、次号のニュースでお知らせします。

今年も新年会を開催します!!

世話人代表：広瀬 英俊（済生会宇都宮病院）

2014年の栃木県支部・新年会を下記の要領で開催します。今年は済生会宇都宮病院の私達が世話人となり運営を担当します。色々と趣向を凝らして楽しい会にしたいと思っています。会員の皆様、奮ってご参加下さい。同窓生のお互いの「絆」・「輪」を大きなものにしましょう!!

新年会への参加の有無は、同封の返信用はがきに必要な事項を記入して 1月31日までに必ず ご投函下さい。

はがきに書かれた近況を支部ニュースに掲載します。ご了承下さい。

日 時：2014年2月16日（日）正午より

場 所：オトワキッチン TEL：028-678-8670

〒321-0964 宇都宮市駅前通り 3-6-5

リッチモンドホテル

宇都宮駅前アネックス 1F

宇都宮駅西口出口から徒歩約2分

参加費：40歳未満3,000円、40歳以上5,000円

（年齢は自己申告です。）

駐車場：ホテルの駐車場が使用可能です。



返信以降、参加できるようになった、行けなくなったという連絡は支部長（以下の連絡先）までお願いします。

滝：（携帯電話）090-6533-1555

（メール）tatabox@kitasato-u.ac.jp

北里研究所 100 年・北里大学 50 年記念式典開催

支部長 滝 龍雄

去る 11 月 5 日、東京・有楽町の東京フォーラム大ホールで北里研究所創立 100 周年・北里大学創立 50 周年記念式典、記念講演会が、帝国ホテルで記念パーティが開催され、参加しました。

北里研究所創立 100 周年・北里大学創立 50 周年 記念式典、記念講演会

先ず、記念式典は午後 1 時より、元お天気キャスターであった根本美緒さんの司会により、開幕しました。藤井清孝理事長の式辞のあと、ドイツ・ベルリンのローベルト・コッホ研究所 Reinhard Burger 所長、慶応義塾大学清家篤塾長、東京大学医科学研究所清野宏所長の祝辞がありました。



慶応義塾大学医学部と東京大学医科学研究所は共に北里柴三郎と深いつながりが有り、北里大学と一緒に「Great Kitasato Family」として、今後強い絆で協力していこうと誓ったそうです(11月14日発行の雑誌・東京人の増刊号『生命科学の開拓者たれ—北里研究所の100年、北里大学の50年—』都市出版株式会社を参照)。



(藤井清孝理事長の式辞)

式典のあと記念コンサートに移り、ソプラノ歌手・小林紗羅さん(医療衛生学部小林弘祐教授のご子女)の美しい歌、バイオリニストの千住真理子さん(校歌作曲の千住明さんの妹さん)の素晴らしい演奏で華やかな式典を楽しみました。



(ソプラノの小林紗羅さん、バイオリンの千住真理子さん)

式典の後、朝日新聞との共催で記念講演会が開催され、基調講演として大村 智先生(日本学士院会員・北里大学特別荣誉教授)の「微生物の力を人類の福祉と健康のために」、岸本 忠三先生(日本学士院会員・大阪大学免疫学フロンティア研究センター教授)の「免疫難病治療への新しい時代の到来」と題した講演がありました。お二人共、研究を始めるにあたり、非常に重要な人との出会い、自分を信じて研究することの大切さを説かれました。

北里研究所創立 100 周年・北里大学創立 50 周年 記念パーティ

記念パーティは会場を帝国ホテルに移して行われました。パーティは最初に、コッホ研究所 Burger 所長より、この場所(帝国ホテル)は、Robert Koch が若い婦人と来日した時に開かれた歓迎パーティと同じとのウィットに富んだご祝辞、日本医師会横倉義武会長、慶応義塾大学末松誠医学部長のご祝辞のあと、ローベルト・コッホ研究所と北里研究所の学術交流協定更新の調印式の後、



海洋生命科学部釜石研究所が採取した石割桜酵母で作られた甘味と独特の香りのある「福香ビール」で乾杯して開宴しました。会場では「北里八雲牛」など盛り沢山の料理を味わいながらパーティは進んで行きました。アトラクションには、文化会ハンドクワイヤによるハンドベルの演奏、体育会チアリーディング部「AMUSE」による演武が披露され、最後に参加者の集合写真を撮り散会しました。

同窓会では、長澤会長をはじめ多くの役員や支部長が出席し、北里研究所創立 100 周年と北里大学創立 50 周年をお祝いしました。



東京人 1 月増刊「生命科学の開拓者たれ」発行

支部長 滝 龍雄

北里研究所創立 100 周年・北里大学創立 50 周年を記念して、雑誌「東京人」の 1 月増刊「生命科学の開拓者たれー北里研究所創立 100 年・北里大学創立 50 年」が都市出版より 11 月に発行されました(定価 700 円)(下)。



編集にあたっては、学校法人北里研究所が全面的に協力しました本誌では、近年の北里大学の生命科学の最前線と称して、教育・研究の目玉である「チーム医療」、「予防医療」、「農医連携」、「病院連携」を特集すると共に、非常に興味深い記事が満載です。

是非、ご覧下さい。



第 10 回北里大学同窓会・支部長会報告

支部長 滝 龍雄

副支部長 岸 善明

去る 10 月 12 日(土曜日)午後、東京・新宿の京王プラザホテルにおいて第 10 回支部長会が開催され、12 支部の支部長とその代理人が参加しました。栃木県支部では支部長(所用で遅刻)と副支部長が参加しました。

1) 同窓会都道府県支部結成の準備状況

鹿児島と沖縄は来年発足予定、埼玉は支部結成の準備に入った。その他としては、東京・神奈川は会員数が多すぎて支部発足の準備は始まっていない。参加した各支部長より、東京・神奈川は会員の発足準備を待っていても難しいので、同窓会本部が主導的に支部結成の準備をするべきとの強い意見が出されました。又現在の同窓会

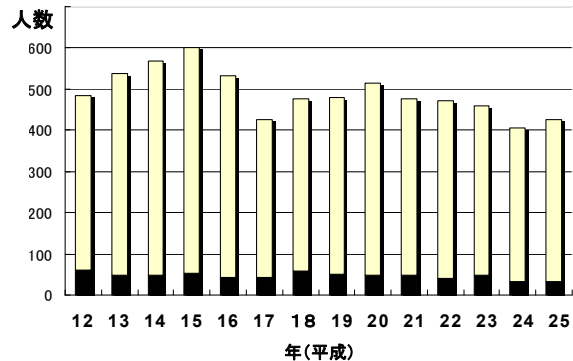
には支部の実情を反映する仕組みがないので、各地域の意見を反映させるために、同窓会に支部長の代表も代議員として参加させるべきだとの意見が多く出された。

2) 同窓会各支部会員動向

本部から提供された資料により、大学の入学試験受験者数と入学者の推移について説明があった。

栃木県では入学試験の受験者数が 10 年前には 500 人を越し、入学者も 50~60 名でしたが、近年は受験生が現象傾向にあり、受験生も 400 名前前で入学者も 35~40 名に留まっています(下の棒グラフ参照)。更に問題なのは、卒業しても、就職先の関係で卒業生の半数くらいしか栃木県に戻って来ていません。

栃木県の志願者と入学者の推移



同窓会本部で栃木県内在住者として把握しているのは 1,117 名ですが、支部会ニュースの連絡リストに入っているのは北里カップル 21 組を含めて 250 名強です。組織率は 20%を越すくらいで、他の支部の場合のアクティブ会員の割合とほぼ同じと言えます。

同窓会は、全会員数が約 59,000 人で、個人情報保護(会員数 5,000 人以上)の観点から会員名簿の作成はできません。栃木県支部では住所のある卒業生全員でも 1,100 人強なので、同窓会本部の基準からは名簿を作成することは可能です。お互いに、同窓生を知るためにも会員リストの作成を検討したい。

3) その他

①同窓会報の原稿の締め切り：11 月 22 日(金)

②北里研究所創立 100 周年・北里大学創立 50 周年記念式典、記念講演会(以上東京フォーラム)、記念パーティ(帝国ホテル)の開催について



北里研究所 100 周年・北里大学 50 周年記念事業 参加募集について

北里研究所創立 100 周年・北里大学創立 50 周年を記念して企画を募集しています。申請の最終締め切り 2014 年 12 月末、企画の実施最終日 2015 年 3 月末日です。

詳細は支部長まで問合わせて下さい。

滝支部長連絡先 tatabox@kitasato-u.ac.jp

高橋幹夫先生講演会・懇親会盛会裏に終了

支部長 滝 龍雄

2013年6月29日(土)午後4時30分より、岩手県立磐井病院臨床検査技師長の高橋幹夫先生をお招きして「東日本大震災における感染制御支援活動から見えたもの」と題した講演会をニューイタヤホテルで開催しました。講演会には約30名の支部会員が出席し、2011年3月11日の東日本大震災で壊滅的な被害を受けた東北地方の太平洋岸で、迅速に救護活動に当られた経験や、公には出来ない被災地の実情を話して頂き、近い将来発生するかもしれない関東から東海を震源地とする巨大地震に対する備えを行う上で、大いに参考になった。



(講演中の高橋幹夫先生)

高橋先生は衛生学部産業衛生学科を昭和59年度に卒業されて故郷の岩手県に就職され、岩手県内の県立病院で臨床検査技師としての研鑽を深め、現在は岩手県立磐井病院の臨床検査技師長として活躍されています。

講演会の後、懇親会を当日は高橋先生の同級生も集まり、お酒好きの高橋先生を囲み大いに盛り上がりました。当日、市内に宿を取った先生は二次会にも参加され、楽しい一夜を送りました。

忘れてはいけないあの日あの時

栃木県立がんセンター 千野根 純子

今年度の支部会講演会の演者を、岩手県立磐井病院の高橋幹夫技師長にお願いすることが出来ました。

高橋技師長とは、衛生学部の同級生、私は衛生技術学科、彼は産業衛生学科で学科は違いましたが、同じ演劇部に所属していました。時には喧嘩をしたり、時には泣いたり笑ったり、青春の1ページと呼ぶに相応しい時間を過ごしました。

卒業後は、それぞれの故郷に帰り就職。卒業して数年後、広い幕張メッセの展示場の真ん中でばったり出会うという偶然もありましたが、それ以来なかなか会う機会はありませんでした。

それから、30年近い時を過ごし、職場で手にした岩手県がまとめた東日本大震災に関する冊子の中に、見覚えのある顔写真を見つけました。検索してみると、現場

での避難所支援活動をまとめた高橋技師長の文章を発見。日々薄れていく震災の記憶と教訓を改めて思い起こす事の重要性を強く感じました。

そんな折、運営委員会で今年度の講演会の講師を探しているとのお話があり、高橋技師長を推薦させていただきました。

当日の報告は、まず岩手県の県立病院でのICT-MTとしての勤務状況についての話がありました。感染症対策は、現在どの病院においても重要視される問題です。日々先頭に立って、複数の病院の感染症対策を取りまとめる事は、大変な重労働だと思います。学生時代からバイタリティーあふれる彼だからこそ、やり通せるんだろうなあと感心しました。



(講演後の記念撮影)

そして、東日本大震災に関する報告。

それは、あの日津波に襲われ壊滅した陸前高田病院のDr.が撮影した、津波の写真から始まりました。

真正面から向かって来る津波。

TVや新聞等々で何度も目にして、その恐ろしさはわかっているつもりでしたが、向かいくる津波を、やがて飲み込まれてしまう低い位置から撮影したその写真は、今まで見たどの映像よりも、津波の高さというものを感じ、数枚の静止画だけにも関わらず、強い恐怖を覚えました。

そんな恐怖の中で、2階から3階、そして屋上へと患者さんを誘導し、寒さと戦いながら、その命を守って奮闘した陸前高田病院の職員の方々には、本当に頭が下がる思いです。

そして、感染症対策を主とした避難所支援活動の報告。

メディアで紹介された「避難所の実情」とはかけ離れた避難所の現実を、無数の避難所を抱え、自宅と勤務地・避難所をひたすら往復し奮闘した日々の実体験を基にいろいろお話していただきました。

感染症の蔓延を防ぐため巡回診療や、Web端末を利用したサーベランスの構築。調理やトイレ時の手洗いの指導や、消毒薬の供給。汚物処理に関する指導。一口に感染症対策と言っても、その内容は多岐に渡っていました。そして、避難所毎に必要なとする支援内容も、まったく違

っており、少数の避難所を抱え、右往左往していた私達とは比べものにならない業務量でした。

被災者の方々の意識と行動力が、避難所毎にまるで違う事にも驚きました。

行政や被災地支援の方々をお願いすることに力を注ぎ、自発的な行動があまり見受けられない避難所。

自分たちで創意工夫して少しでも快適に過ごすために、手に入る材料をかき集めお風呂まで作ってしまった避難所。

「リーダーの職業で傾向が違う」等という裏話も、実際に体験したからこそその話でした。自分の住む地域の職業構成を思い出して、もし被災したらどうなるのだろうか？等と考えてしまいました。

メディアでは紹介されない、リアルな避難所の写真をたくさん見せて貰い、表には出てこないいろんな話を聞き、あらためて、あの日あの時、皆が息を凝らして見つめた災害現場の最前線で、頑張っていた同級生がいた事がとても誇らしく思えました。

毎日の業務や、学会活動に忙しい中、わざわざ栃木まで来てくれた幹夫君（あだ名は、伏せておきましょうね!）、本当にありがとうございました。

講演後、懐かしい学生時代の話や、同級生の話等、みなさんと楽しくお酒が飲めた事も、記憶の1ページに追記しておきます。



(講演後の懇親会)



(講演後の記念撮影)



リレー・フォー・ライフ 2013 栃木報告

チーム・リーダー 岸 善明

サブ・リーダー 齋藤けさよ

9月14日～15日にリレー・フォー・ライフ 2013 栃木 (Relay For Life 2013 Tochigi in Utsunomiya) が村井邦彦実行委員長 (村井クリニック院長) のもと、37チームが参加して宇都宮城址公園で開催されました。北里大学同窓会栃木県支部はリレー・フォー・ライフの精神に賛同し、「健康・環境・食の連携による生命科学と医療科学の発展を目指す北里大学の卒業生チームです。がんと闘う方々の勇気を称え、がん患者の皆様のお役に立ちたいと思っています。」をスローガンとして昨年に引き続き参加しました。

北里チームは会員とその家族、そしてサポーター約25名で24時間のリレーを計画しました。メンバーの参加時間は、それぞれの都合に合わせた数時間でした。



(プラカードを持って開会式に参列しました。)

各時間帯のリレーチームの編成は2～5人で、数時間ずつ交代しながら約2mの北里のマークが付いた横断幕を先頭に持ち黙々とコースを歩きました。



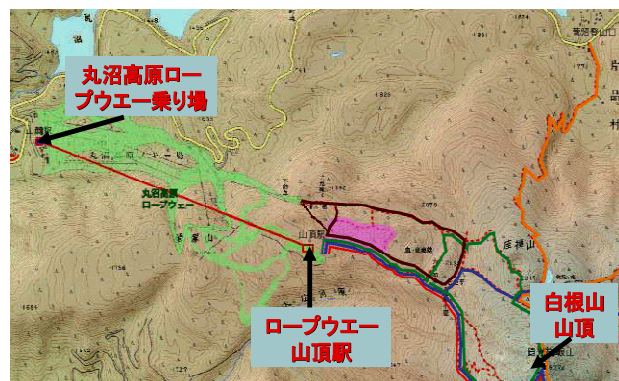
(愈々スタートです。岸チーム・リーダー以下、歩き始めます。)

昼コースの長さは約700m、夜コースはイルミネーションで足下を照らした幻想的な約400mでした。台風18号の余波が心配でしたが14日の12時から15日の5時までには穏やかにリレーが進みました。しかしその後、

日光白根山に登りました 岸 善明

毎年6月上旬になると「日光白根山にシラネアオイが咲きました」と下野新聞に掲載されます。この山は栃木と群馬の県境に位置する関東の最高峰（標高 2578m）です。奥白根山は男体山の奥院とも言われる日光山群の最高峰でもあります。山奥に有るため栃木の平地からは山頂を僅かに眺望するだけで、山の立派な姿を見ることが出来ません。そのためか、日光白根山は男体山のように栃木県内で周知されておりません。

6月8日、『役員会を山で行う』企画は中止でしたが、予定どおり日光を通過し、金精峠（トンネル）を越え、丸沼から日光白根山に登頂しました。このルートはゴンドラを利用すると標高 2000mからのスタートとなり、所要時間約 4 時間、標高差は約 600m の登山です。湯の湖等からのコースよりも難易度が低く、初歩的なものです。



登山当日の天候は熱帯低気圧と梅雨前線の関係でいろは坂は小雨、戦場ヶ原は花曇り金精トンネルを抜けると濃霧と小雨、丸沼高原は小雨、ロープウェイ山頂駅は一瞬の青空と薄曇りでした。山頂駅前はシラネアオイが咲き誇る高山植物園で、そこからシカ避けの鉄製の門を通過して日光白根山の登山を始めました。出発直後の山道は針葉樹の原生林を通過するルートで、残雪が彼方此方に見られました。しばらく行くと広葉樹の多い場所に入り、新緑と周囲の山が見られる登山となりました。登り初めて 1 時間 30 分、森林限界に近付き灌木地帯となり見晴らしが良くなりました。一部には十数本の高山性の桜が咲き誇る場所もありました。花はやや小ぶりだが色は濃いピンク、花数は多く実に見事でした。森林限界が終わると頂上が見えました。ここから瓦礫と砂礫の斜面に入り、しばらく登ると稜線に出ました。稜線が終わると岩だらけの山頂でした。

「日本百名山」の著者、深田久弥は奥白根の頂上を一種異様である。山頂は蜂の巣のように凹凸がはげしく、どこを最高点とすべきか難い。小火口の跡があちらこちらに散在しており、これをめぐって岩石の小丘が袴壑雑に金静綜している。……おもな火口を教えただけで五指にあまってこの山がいかにも激しい噴火を繰返したかを、それは物語っている。……この様に書いています。栃木県在住の皆様には、天気を見ながら、日光白根山登山にチャレンジして下さい。



(深夜にも歩き続け、タスキを繋ぎます。)

予想どおり大粒の雨が降り出しました。この様な状況下、傘を持ち、カッパを着用しリレーを続けましたが、正午



(雨の中でも歩き続けます。)

を待たず午前 8 時に時間短縮で終了する事となりました。最後のファイナルウォーク後、実行委員長から来年度も開催する旨、宣言がありました。栃木県支部は活動の精神『リレー・フォー・ライブ活動とはがんと戦っている人を支える事を通して社会全体がガンや病気を身近なものにとらえ、そして市民の一人一人が自らの生き方を問い直しながら前向きに生きてゆける事への励ましのメッセージである。』を踏まえ、来年度に向けて準備を進めていきたいと思います。今回応援等も含め参加していただいた会員の皆様には引き続き、今回は参加いただけなかった皆様も、来年度の開催の際は御協力お願いいたします。

会員各位のご理解、ご支援、宜しく願いいたします。



(台風の影響で、中止。ご苦勞様でした。来年も頑張りましょう。)